

教育哲学研究

第 124 号

2021

特集 〈ふれる〉ことのエ育哲学

- 「ふれる」から「知る」を問い直す
— Knowing by touching から Knowing by sensing へ —生田 久美子
- 距離と接触
— 「注意」概念による「ケアの倫理」の再考 —池田 華子
- 食の動物 - 人間学に向けて
— 調理の場で〈ふれる〉ことの可能性 —石村 華代
- 「直接体験」対「間接体験」という対立図式の限界と観念のシステム間共同
構成プロセスの検討 — N・ルーマンの学習論を手掛かりに —鈴木 篤
- 「会話を継続すること」、そして共約不可能性を乗り越えて通訳者となること
— 〈ふれる〉ことの個人性・個別性、具体性・直接性を手掛かりに —藤井 千春
- 「神即自然」にふれること
— アルチュセールにおけるスピノザ —野見 収
- 「他者」に〈ふれる主体〉の生成
— 「奇跡の人」における「愛撫」に着目して —森岡 次郎
- コロナ禍におけるインティマシー（親密さ）の変容とその教育的含意
— 子どもへのワクチン接種義務化の議論にも絡めて —帖佐 尚人
- 「振動による接触」としてのユニゾン
— アルフレッド・シュッツの「我々関係」を手がかりに —山田 雅彦

論文

- 私が存在することの「重さ」について
— レヴィナスにおける「恥」概念を手がかりにして —加藤 里奈

エッセイ

- 「経験の哲学」の再構築に向けて
.....加賀 裕郎

教育哲学を考ふる

- 開かれた教育哲学に向けて
.....齋藤 直子

書評

- 小笠原道雄・森田尚人・森田伸子・田中每実・矢野智司著『続 日本
教育学の系譜 — 京都学派とマルクス主義』青柳 宏幸
- 田中每実著『啓蒙と教育 — 臨床的人間形成論から』
.....小野 文生
- 森田伸子著『哲学から〈てつがく〉へ — 対話する子どもたちとともに』
.....田中 智志
- 高宮正貴著『J・S・ミルの教育思想 — 自由と平等はいかに両立するのか』
.....宮寺 晃夫
- 西平直著『養生の思想』
.....山本 正身
- 桑嶋晋平著『勝田守一と京都学派
— 初期思想の形成過程と忘却された思想の水脈』田中 每実
- 小笠原道雄著『原典資料の解説によるフリードリヒ・フレーベルの研究
— 国際化の視点からみるフレーベルの思想・制度・実践に関する考察』
.....松村 納央子

図書紹介

- 橋本美保・田中智志編著『大正新教育の実践 — 交響する自由へ』
.....増田 翼
- 岡部美香編著『シリーズ人間科学 6 越える・超える』李 舜志
- M・R・グレゴリー、J・ヘインズ、K・ムリス編／小玉重夫監修／
豊田光世・田中伸・田端健人訳者代表『子どものための哲学教育
ハンドブック — 世界で広がる探究学習』河野 哲也
- コメニウス著、太田光一・相馬伸一訳『パンオルトシア 世界会議の創設』
.....井ノ口 淳三
- 日本デューイ学会編『民主主義と教育の再創造 — デューイ研究の未来へ』
.....西本 健吾
- ヘレン・M・ガンター著、末松裕基・生澤繁樹・橋本憲幸訳『教育の
リーダーシップとハンナ・アーレント』石神 真悠子
- 井藤元著『シュタイナー学校の道徳教育』河野 桃子

英文摘要